

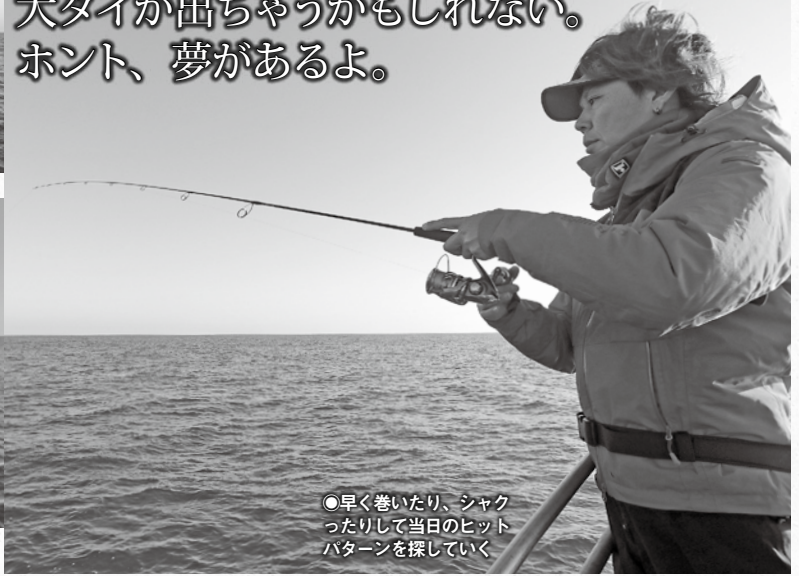


▲スピーディーなワンピッチジャークでヒット



▲当日はバンフルズジグTG SLJの40グラムをメインに使った

ヒラマサのデカイのがくるかもしれないし、大ダイが出ちゃうかもしれない。ホント、夢があるよ。



●早く巻いたり、シャクったりして当日のヒットパターンを探していく

平気で食ってくるからだ。……12号で14キロのヒラマサも、かなりしびれる。船長も150メートルほどラインを引き出されたそうだ。

開始10分で不安がる。今日はダメかも……？

SLJはジャツカル・プロスタップのヨッシーこと吉岡進さんが得意とする釣りだ。専用ロッドとジグを自らプロデュースし、全国に愛用者も多い。

「ツリガチ」では、21年7月に広布号でのSLJを楽しんだ。夏の外房では、陽気な青物とマダイが乱れ咲いた。

「今日はマハタを釣りたいね」とヨッシー。

「何が釣れるか分かんないし、釣ればなんでもうれしいのがSLJ。」

おれは今日、マハタを狙ってみようと思うけど、ヒラマサのデカイのがくるかもしれないし、大ダイが出ちゃうかもしれない。ホント、夢があるよ」

太東沖、24メートルのポイントで釣りが始まったのは午前6時50分のことだ。

静かだ。聞こえてくるのは、ジャークアクションによりウエアが擦れる音と波音、そして頼

すさまじい……。気軽に楽しいSLJにも、ピリツとした緊張感とドキドキの期待感がある。それが大原のSLJなのだ。

もしもエンジン音だけだ。

「……おや？」

ヨッシーが弱よわしく言う。

「……これは……？」

釣友にして当コーナーの専属モデル(?)、イチロウこと鹿

島一郎さんが言う。

「……もしや……？」

当コーナーの専属ライター、

タカハシゴーが言う。

開始わずか10分で、早くも不安がるツリガチスタップ。

「SLJ楽しいツスね！」

釣友にして当コーナーの若手

のホープ、トモキこと板倉友基

さんは、不安も何も、初

めてのSLJが面白くて

仕方ない。

トモキ自身はクロダイ

のヘチ釣りでその名をは

せるガチ釣り人だが、S

LJはビギナー。それで

もすんなり「楽しいツス

！」と笑えるハードルの

低さがSLJの魅力だ。



▲初挑戦の板倉さんもSLJにハマる

それにしても開始10分で「今日はダメかも……？」と不安がるヨッシー&ツリガチスタップ。彼らの忍耐力に問題があるのは確かだが、「何か釣れるはず」というSLJへの期待値の高さも示している。

これがガチジギングだと話はまったく別だ。「一日シャクリ続けて1本でも釣ればサイコー」というぐらいの心持ちで挑むため、開始わずか10分程度でボヤクなどありえない。

ちよつとも釣れないとすぐ不安になるSLJと、一日シャクってアタリすらなくても「今日は今日で楽しかったね」と笑えるMツ気の強いガチジギング。同じ「ジギング」カテゴリーでもキャラクターはかなり異なる。

2流し目、32メートルダチ。船中では小さなマダイが上がった。その数分後に、ヨッシーもマダイを釣る。